

沖縄病院

基本理念 <患者様の立場を尊重し高度で良質の医療を提供します>

【病院概要】

当院は、当時蔓延する結核に対する診療・療養施設として昭和 23 年 8 月に沖縄民政府公衆衛生部金武保護院として創設されました。その後、琉球政府立金武保護院、国立療養所沖縄病院、そして国立病院機構沖縄病院と名称変更され、2018 年には新病棟を完成させ創立 70 周年を迎えました。

当院の 2 次医療圏としては、宮古・八重山地方を含む半径 400km 超を担当しており、沖縄全県からまた、社会的環境の影響から、米国籍の方ならびにアジアからの留学生などの患者さんも受け入れています。

提供する診療は主として、肺がんの外科・内科、神経・筋の難病、緩和医療、結核療養の 4 つを柱としています。肺がんについては、沖縄県最多の症例数（200 例超の新規登録）を扱い「肺がんセンター」を掲げています。また、神経・筋難病については、現在も増加を続けている、認知症、パーキンソン病棟などの神経難病に対応するための、「脳・神経・筋疾患研究センター」を設置しています。また、減少する結核患者数と政策、経営、そして 2025 年に完成させる国策でもある地域包括ケアシステムなどに対応し、2019 年度には、結核病棟の一部を一般病棟に変更する結核ユニット化を、一般病棟 1 つを地域包括ケア病棟に再編成しました。さらに、治験・臨床研究を実直に展開してきた結果、2019 年度には臨床研究部も設置されています。

薬剤部門としては、これらの病院機能に応じ、対物的業務である医薬品の管理・供給、調剤、院内製剤、抗がん剤の無菌調製、病院全体に対する DI に加えて、TDM、個別 DI、入院・外来患者への服薬指導、病棟薬剤業務、臨床研究・治験のサポートなど医療の本質である対人業務を行っています。さらに、NST、ICT、AST、緩和、褥瘡などの医療チームでの活動、医療安活動のほか各種委員会においても必要とされ、多くない人数でマルチタスクへ対応しております。

【施設概要】 2023.7.1（データは 2022 年度実績）

1. 所在地 〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古 3 丁目 20 番 14 号
2. 特徴 沖縄県難病指定病院、神経筋研究センター、肺がんセンター、臨床研究部設置施設、ISO9001、学会等研修施設の認定（薬学生長期実務実習受け入れ施設、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・がん専門薬剤師・薬物療法専門薬剤師・認定制度研修施設）
3. 診療科 12 診療科

【外科系】外科、整形外科、呼吸器外科

【内科系】内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科

【外科・内科系以外】緩和医療科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科

病床数 300 床（筋ジス 100、その他一般 170、結核 30）

病棟数：7 病棟（入院基本料等）

（緩和ケア病棟 1；緩和ケア病棟入院料 2 7 対 1、地域包括ケア病棟 1；地域包括ケア病棟入院料 2 13 対 1、外科・内科混合病棟；専門病院入院基本料 10 対 1、脳神経内科系 1；障害者施設等入院基本料 7 対 1 内科系 1（結核ユニット）；専門病院入院基本料 10 対 1、筋ジス病棟 2；障害者施設等入院基本料 7 対 1）

4. 薬剤師数 薬剤助手 2 名、薬剤師 4 名、主任薬剤師 2 名、副薬剤部長 1 名、薬剤部長 1 名の 10 名

5. 主な業務

(ア) 調剤 入院 31,093 枚/年、外来 15,067 枚/年 (院外処方率 91.21%)

(イ) 注射 入院 21,242 枚/年 外来 2,940 枚/年

(ウ) 薬剤管理指導件数 2,741 件/年

(エ) 無菌製剤処理料 1,253 件/年

(オ) 外来腫瘍化学療法診療料 1 544 件/年

(カ) 外来腫瘍化学療法診療料 2 1 件/年

(キ) 連携充実加算 111 件/年

(ク) 外来化学療法加算 5 件/年

(ケ) 後発医薬品使用体制加算 加算 1 ; 1,071 件/年、加算 2 ; 349 件/年

(コ) 一般名処方加算 加算 1 ; 9,207 件/年、加算 2 ; 2,967 件/年

(サ) チーム活動 ICT、AST、NST、緩和、褥瘡、医療安全

6. 特徴的な業務

- ・PBPM (薬剤師による検査オーダー・処方・注射オーダー、保険薬局との調剤変更に関する事前合意プロトコルの運用)
- ・外来業務 (がん患者への薬剤師外来ケア)
- ・緩和ケア病棟における医療チームラウンド、緩和ケア病棟における院内製剤
- ・地域包括ケア病棟における薬剤師業務 (呼吸器内科、呼吸器外科、脳神経内科、整形外科)
- ・定期的な医療安全ラウンド (GRM、医薬品安全管理者、ME) と再評価による医薬品安全使用の向上)
- ・ラジオ番組での定期的な医療、薬事衛生に関する解説
- ・米国籍患者が持参する米国の内服薬等の服薬計画と服薬指導
- ・学会研究会等・論文での積極的な発表 (学会 7 演題発表、論文 2 報 ; 2022 年度実績)

7. 2023 年度の取り組み予定

毎年の取り組みは、医療サービス、教育・育成、学術研究、経営のカテゴリについて、求められる運営目標を設定している。今年度は主として、以下に記す事項に取り組んでいる。

- ・外来患者の薬物治療について、医師と薬剤師の分担連携から協働連携へと連携強化するための活動
- ・副作用報告、副作用被害救済制度の積極的周知と活用推進
- ・厚生労働省医薬・生活衛生局総務課長発出の「調剤業務のあり方」(薬生総発 0402 第 1 号) に基づく、薬剤助手の調剤業務への積極的活用するための安全教育プログラムの改訂と実践
- ・その他【特に重点的に行う部門目標】に記述した。

8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○

水剤監査システム	×
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	×

9. 目標

【2023 年度病院目標】

1. 中長期的なビジョンを描く

- ①ブランド力を上げる（肺がん、神経難病、結核、緩和）
- ②地域との連携を強化（地域への貢献、信頼される病院）
- ③臨床研究の充実（医療への貢献、人材育成、データベースの構築）

2. 適切な情報を可視化し、危機意識を高める

- ①診療内容のデータ分析による可視化－変革の必要性を知り、共有する
- ②実績を記録に残す（病院雑誌の充実、年報発行、HP の充実地域医療への貢献）

3. 危機意識を共有すると同時に、ビジョンは発信し定着させ職員のモチベーションをあげて、主体的に行動を促す（現行の会議をより生産的なものへ変えていく）感謝の気持ちを持ち続ける

4. PDCA を継続して定着させる

【薬剤部門目標】

- ・ 病棟における薬剤師業務の充実（薬剤管理指導件数、プレアボイド活動、副作用報告から院内 DI 活動へ、副作用救済制度、薬品管理、院内製剤等）
- ・ 国策と経営のバランスの良い後発品への切り替え
- ・ 薬物療法の安全性向上と副作用報告の推進
- ・ 外来患者サービスの向上
- ・ 薬薬、病薬連携の充実
- ・ 学術研究活動の維持・活性化
- ・ 育成・教育活動と体制の整備（実習生、職員）
- ・ 外部資金の獲得（治験、副作用報告）